



市長 からの 手紙

80 草刈り

先日、自宅の周りの水路と畑の草刈りをしました。エンジン付きの草刈り機なので、鎌で刈るのに比べて腰も痛くならないし、効率よく刈れるのですが、この時期の雑草は刈っても刈ってもすぐに伸びてきます。

行政も、管理する公園や歩道の植え込み、路側帯、水路などの草刈りにはかなりの費用を掛けています（余談ですが、雑草を食料に変えることができれば、わが国の食料自給率をすぐに100%にできるような気がします）。

わが家の敷地は、かつて水田だった土地なので、二方向を水路に囲まれています。4月から10月までは、放置するとアシなどの雑草がすぐに背高く生い茂ってしまうため、年2～3回は水路の草刈りをしています。

地域の水路の草刈りは、10年くらい前までは地域の住人が総出で行っていました。かんがい用水路なので、水流の障害物になる水路の中に生えた草を、刈り取る作業を年1回6月に恒例行事として行っていました。昭和40年代ま

では、この地域の戸数が約30戸で人手が少なかったため、草刈り作業を終えるのに時間がかかっていましたが、その後戸数が増え、作業を始めてから1時間もたたないうちに終了できるようになりました。一方、草刈り鎌を持っていないお宅も増えたため、全戸総出での草刈り作業はなくなりました。

水田地帯のかんがい用水路の草刈りは、水路をかんがいに利用する農家の人たちがこれまでずっと行ってきましたが、農業の担い手の高齢化に伴い、耕作も草刈りなどの環境整備もままらなくなりつつあります。市が管理する水路の草刈りも市の課題の一つです。

草刈りをしていると、カエルやバッタなどの生き物が逃げて行きます。生き物の住家を奪っているような気分になりますが、除草剤をまくよりはいいだろうと思っています。

先日は草刈りを始めたら、鳥（ヒヨドリ？）が、作業をしているすぐ近くの木の枝に寄ってきて止まりました。野鳥なのに、ずいぶんとなれしている鳥だと思っていたら、草が刈られて飛び出して逃げたバッタを目がけて、さっと飛来し、すかさずくわえて飛び去り、また木の枝に戻って同じように飛び出した虫をさらって行くという行動を4～5回繰り返していました。要領の良さに驚きました。草刈りの最中に、このような驚きに遭遇することがありました。

川越市長 川合善明

くらしに身近な公共交通①

交通政策課 Tel 224-5519

Fax 225-9800

自動車は、いつでも、どこへでも行ける便利な交通手段として、大きく発展してきました。しかし、自動車への過度な依存は、交通渋滞や環境負荷の増大だけでなく、鉄道や路線バス等の利用者の減少による公共交通の衰退などにもつながることがあります。

このコラムでは、このような「過度に自動車に頼る状態」から「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度利用する状態」を目指し、暮らしに身近なさまざまな公共交通を紹介していきます。自分にできることから、公共交通を利用してみませんか。

高速バスについて

高速バスは、身近な乗り場から遠く離れた目的地まで、乗り換えなしで行ける便利な乗り物です。車内には、長距離乗車を快適に過ごすためのさまざまな工夫がなされています。市内からも各地へ運行しています。

■設備の一例

- 3列独立シート
- 間仕切りカーテン
- 無線LAN
- 充電設備
- トイレ

* 事業者によって異なります。

* 高速バスの情報は、川越市バスマップまたは市ホームページで確認できます。



3列独立シートと間仕切りカーテン